

帰国・外国人児童生徒等に対するきめ細かな支援事業【由布市】

現状と課題

- ・由布市での帰国・外国人児童生徒等の指導ができる支援体制づくりが不十分である。
- ・多言語化が進み、母語での指導で個々に対応するのは限界がある。いつ、どこから転入があるかわからない状況である。
- ・由布市教委が、人材を確保・育成し、学校の要請に応じて人材を派遣するなど、システムづくりを行うことで、当該児童生徒の実態に応じた指導体制の構築を進めていくことを目指している。

事業内容

日本語指導アドバイザー

- 日本語指導アドバイザーを招聘し、日本語指導への助言を求める。
- 適切な日本語指導を確立のための取り組みを行う（個別の能力に応じた「特別の教育課程」の作成、日本語指導支援員と連携した指導内容の構築 等）



連動

日本語指導者養成・スキルアップ研修・連絡会を
実施して指導力アップ

日本語指導支援員の派遣

- 日本語指導が必要な児童生徒に支援員を派遣し、児童生徒の能力に応じた指導を行う

事業成果

児童生徒の日本語能力アップ
指導者の日本語指導力アップ



- 日本語指導を継続的に実施することにより、支援体制を構築することができた。
- 帰国・外国人児童生徒等の日本語能力が高まり、進路選択の幅を広げることができた。
- 日本語指導ができる人材を教職員を中心に育成することにより、支援体制作りができた。